

生産出荷日本一のクレソンを中心とした「クレソンの村道志」プロジェクト

(どうしむら)
【山梨県道志村】

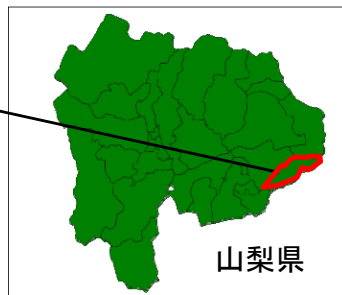
目標: 販売額の増加 整備内容: 農道(169m)、用排水施設(144m)、鳥獣被害防止施設(3,400m)、貯蔵施設

【工夫のポイント】

- 道志村の特産品であるクレソン(生産量日本一)を振興作物と位置付け、耕作放棄地の再生利用作物としての導入や他の作物からの転換等、クレソンの生産拡大による地域振興を推進
- 貯蔵施設の整備により、需給バランスを踏まえた出荷調整が可能となり、クレソンのブランド力強化に貢献

【取組地域の概要】

- 位置 (どうしむら)
山梨県道志村(過疎、振興山村、特定農山村)



- 主要作物
・クレソン
・ばれいしょ
- 主な支援施策
・山村振興等農林漁業特別対策事業(H9～H10、H14～H15)
・中山間地域総合整備事業(国: H15～H28)
・農業基盤整備促進事業(国: H27～H28)

事業活用

基盤整備

基盤整備による農地の再生化と効率化

【現状の課題】
農業生産基盤の未整備による生産性・営農条件不良等が課題

基盤整備

農道整備、用排水施設整備によって、営農条件を改善

基盤整備により、耕作放棄地の再生と生産性・営農効率が向上



整備前



整備後
(イメージ)

事業活用

生産現場

鳥獣被害防止施設の整備による特産品の安定生産

【現状の課題】

鳥獣被害
・農作物の食害等

・生産量の減
・営農意欲低下

・所得の減
・離農による耕作放棄地発生懸念

鳥獣被害防止柵の設置

・農作物被害(クレソン食害等)の防止
・営農意欲の向上を図り、耕作放棄地発生抑制と再生活用が可能



【イノシシによる被害】

新たな担い手確保とクレソン等生産拡大の推進

事業活用

加工・流通

貯蔵施設の整備による安定供給

農産物貯蔵施設の整備によって、需給調整が可能となり、供給量と価格の安定が実現

特産品のブランド力向上



【クレソン】

貯蔵施設と基盤整備を組み合わせた出荷量と品質の向上

- 生産の拡大に併せて貯蔵施設を整備。主要出荷先である「道の駅どうし」への安定的な農産物供給と加工品の展開によって農業者の所得を向上
- 新たな販売拠点(アンテナショップ: 横浜市)での販売展開をきっかけに、都市部の消費者ニーズに合わせた商品を開発し、販売額の増加を目指す



(万円) 販売額

